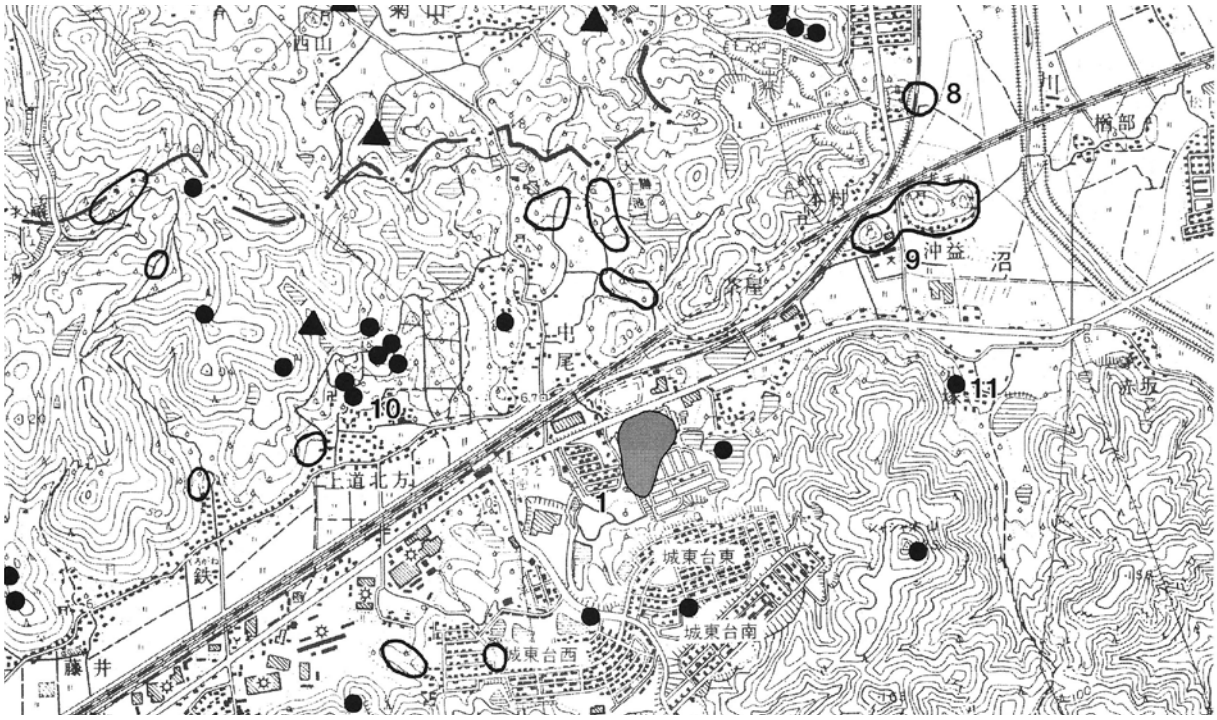
中尾平山遺跡

安　川　　満

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

中尾平山遺跡は現在の JR 山陽本線上道駅の南東、岡山市北区中尾の丘陵部に所在する。平成元年ごろに焼土が露出しているのが発見され「平山池西遺跡（仮称）」とされていたが、平成９年、中尾台団地の開発に伴い発掘調査を実施した。。

調査では丘陵部に点在するかたちで、製炭窯４基を検出した。残存状態のよい２号製炭窯、３号製炭窯をみると、通称「ヤツメウナギ」と呼ばれる横口付製炭窯で、長さ約 10 ｍ、幅約１ｍ、斜面にほぼ平行して築かれている。窯の上部には防湿のための溝（上方溝）、窯奥には石組の煙り出し、窯の前面には幅２ｍほどの平坦面（前庭部）が伴う。操業時期については、遺物がごく少ないため判断しがたいが、１号窯の周辺から８世紀台代のものとみられる瓦片、３号窯の上方溝～焚口付近から７世紀前半代の須恵器が出土している。なお、丘陵全域に試掘を行うなど探索したが、製鉄炉は発見できなかった。

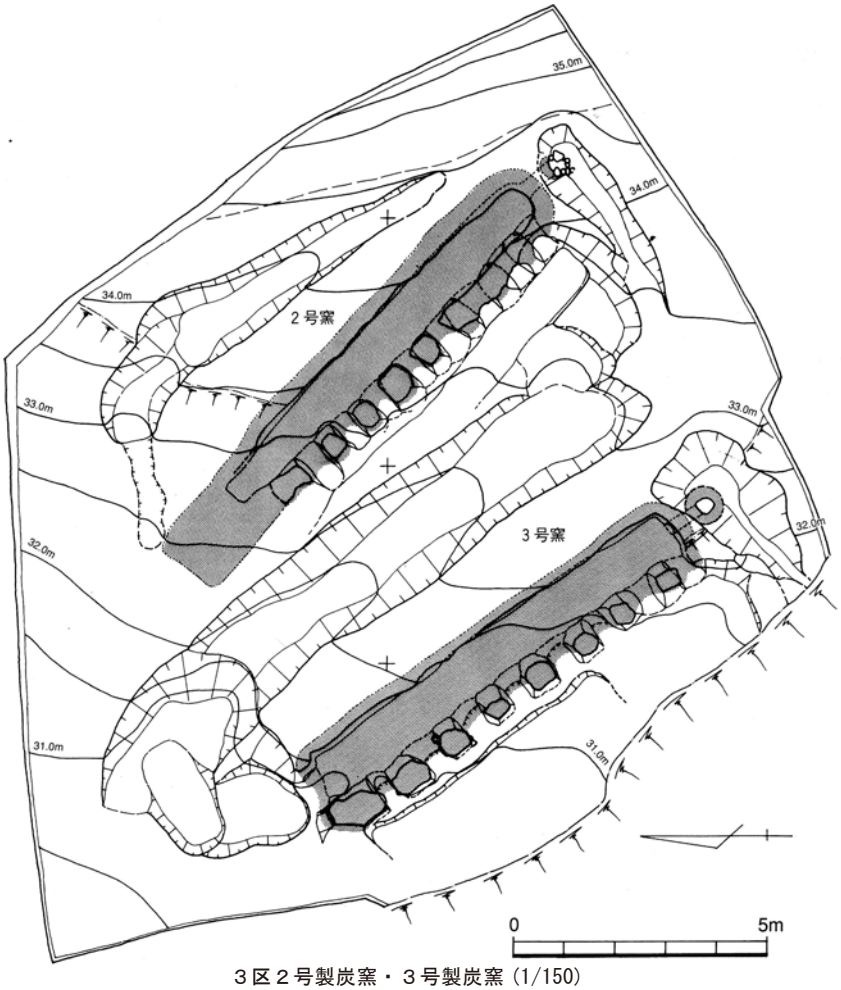
備中、美作に比べ製鉄の印象が薄い備前地域だが、西祖山方前遺跡で製鉄炉が発見されているほか、中尾平山遺跡周辺でも、鉄滓や炉壁が散布する地点が多数報告されている。

【文　献】

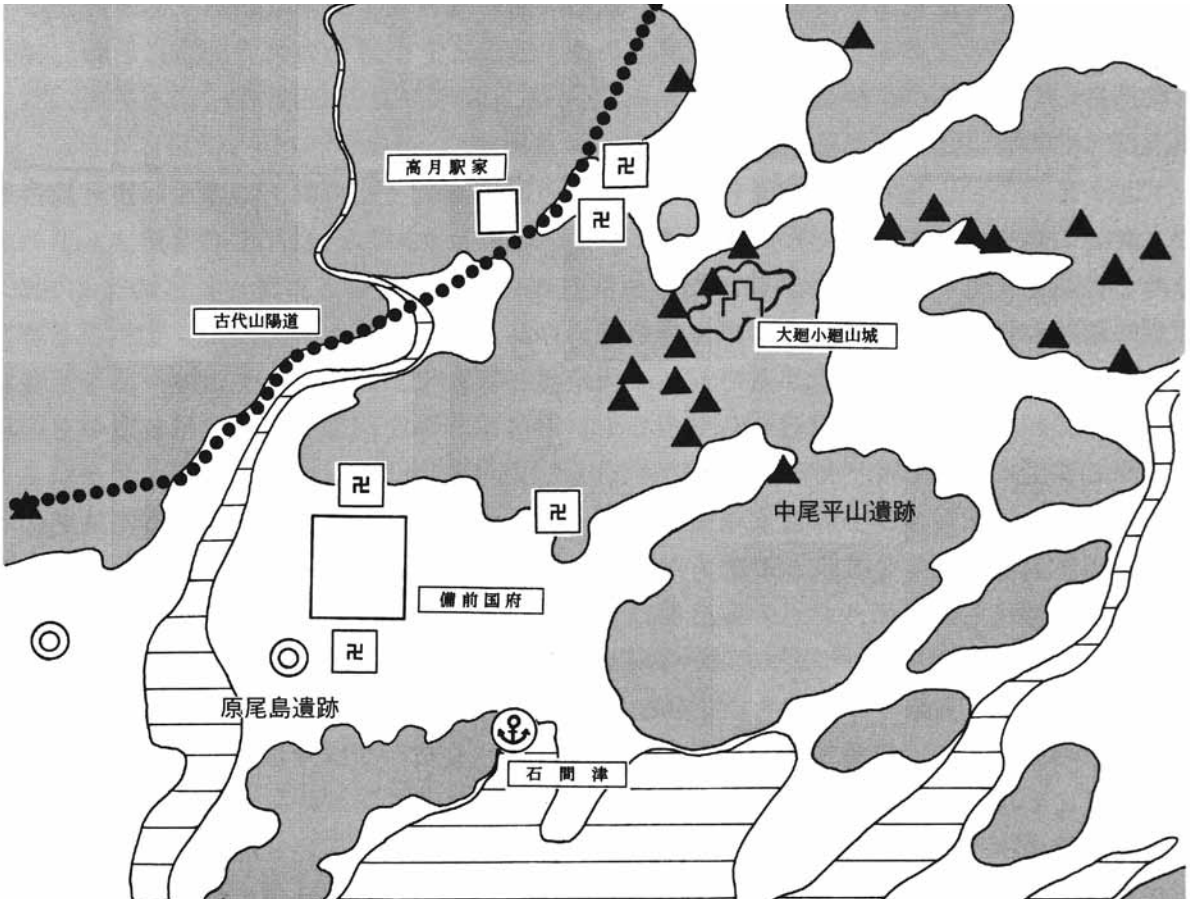
岡山市教育委員会 2003『中尾平山遺跡―中尾住宅団地（アビオ中尾台）造成に伴う発掘調査』

【交　通】

JR 山陽本線「上道駅」から徒歩 10 分



３区２号製炭窯・３号製炭窯 (1/150)



７～８世紀における遺跡周辺の状況